45 01 09 01 01 006

事務事業評価表

1．基本事項

作成日　令和03年06月25日（金）

事務事業	救急活動推進事業	担当課	警防課	担当係	救急管理係	管理番号	4511
第2次総合計画 行政施策分野別名		事業区分	■ 自治事務	□ 法定受託事務 →	対象拡大 有□ サービス拡充 有□		
大項目	200004 安心とやすらぎを感じられるまち（暮らし・環境）	根拠法令個別計画等	救急救命士法				
中項目	200001 備えができ、安全・安心なまちづくり						
小項目	200002 消防・救急体制の充実						

事業概要	救命率向上のため、救急救命士及び救急隊員に病院実習、研修等を実施することで、資質能力の向上が図られ、質の高い救急医療サービスを提供するものである。
目的 ※何のために	質の高い救急医療サービスを市民へ提供するため。
対象 ※誰・何を対象に	現任の救急救命士及び救急隊員。
手段 ※どのように	病院実習、救急研修及び教育訓練を実施。
成果 ※何を求めるか	救急救命士を含む救急隊員の資質向上を図る。
執行体制	■ 市職員　□ 一部委託　□ 全部委託　□ 指定管理　□ 市民ボランティア　□ NPO 民間団体　□ その他（　　）

事務事業を構成する予算事業

会計区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額（円）
一般会計	09	消防費	01	消防費	01	常備消防費	救急活動推進事業	2,313,523
	00		00		00			0
	00		00		00			0
	00		00		00			0
	00		00		00			0

本事業の主な業務

- 指導救命士養成研修
- 救急救命士再教育病院実習
- 救急救命士気管挿管病院実習
- 救急救命士薬剤投与病院実習
- 救急救命士就業前病院実習
- 医療廃棄物処理委託
- 埼玉県北部地域メディカルコントロール協議会負担金の支出
- 救急救命士ビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管病院実習
-
-
-
-

2．事業費（投入コスト）

単位：円

区分		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度別計画							
事業費	予算（現額）	3,278,000	3,330,000	3,160,000	2,832,000	3,340,000	33,400,000
	決算額	3,107,353	3,218,827	3,084,904	2,313,523	0	0
財源内訳	国支出金	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	541,000	0
	地方債	0	0	0	0	0	0
	他特定財源	1,135,000	1,230,000	1,187,000	858,000	892,000	892,000
	一般財源	1,972,353	1,988,827	1,897,904	1,455,523	1,907,000	1,907,000
人件費	従事職員数（人）	1.15	1.15	1.05	0.95	1.25	1.25
	人件費相当試算 ※1	8,945,850	8,949,300	8,254,050	7,729,200	10,170,000	10,170,000
		0	0	0	0	0	0
（総事業費試算）		12,053,203	12,168,127	11,338,954	10,042,723	13,510,000	12,969,000

※1　人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

事務事業評価表

3．評価指標

グラフ表示	区分	指標名		単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標なし
□	活動指標１	薬剤投与病院実習数	目標値	回	3.00	4.00	4.00	3.00	0.00	0.00	□
			実績値		4.00	4.00	3.00	3.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		薬剤投与の座学終了者数により目標値を設定							
		病院実習数									
□	活動指標２	気管挿管病院実習数	目標値	回	2.00	2.00	2.00	2.00	0.00	0.00	□
			実績値		2.00	2.00	2.00	1.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定							
		病院実習数									
■	成果指標１	薬剤投与認定救命士数	目標値	人	60.00	64.00	67.00	69.00	0.00	0.00	□
			実績値		60.00	64.00	67.00	69.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定							
		資格取得者数									
■	成果指標２	気管挿管認定救命士数	目標値	人	17.00	19.00	21.00	21.00	0.00	0.00	□
			実績値		17.00	19.00	21.00	21.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		救急救命士の各認定・登録状況により目標値を設定							
		資格取得者数									
□	成果指標３	救急医療情報システムアクセス用情報機器端末使用率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	0.00	0.00	□
			実績値		100.00	100.00	100.00	100.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		全ての救急活動に有効に使用できるよう目標値を設定							
		使用回数／救急出動件数									
□	効率指標１	救急隊員１人あたりにかかる費用	目標値	千円							■
			実績値		219.00	225.00	209.00	176.00	0.00	0.00	
		年度別目標値の設定根拠		社会的背景も影響するため、目標値は設定できない。							
		総事業費／救急隊員									

4．観点別評価　（A：目標値どおり（以上）　B：ほぼ目標値どおり　C：目標未達成　－：目標値の設定がないもの）

活動 （意図した活動を行っているか）	B	目標が設定できないものは、活動指標の数値の推移を説明 救急救命士が救急救命処置を施行するために必要な実習である。概ね計画どおり実施できたが、一部の医療機関で予定していた気管挿管病院実習がコロナ禍の情勢により受入れ不可となったもの。
成果 （意図した成果が上がっているか）	A	目標が設定できないものは、成果指標の数値の推移を説明 現任の救急救命士が救急救命処置の認定資格を取得して、救急現場にて各種救急救命処置を行っている。
効率性 （効率的に事務を行っているか）	-	目標が設定できないものは、効率指標の数値の推移を説明 内容により、救急隊員の生涯教育に係る実習等の経費が異なるため目標値設定できない。

評価者	課長補佐兼救急管理係長　倉上　正

5．前年度改善改革プラン達成状況

前年度 改善・改革案	救急救命士の現場活動に重要な「救急現場学」を軸とする教育の企画及び実施、認定資格取得には医療機関での実習は不可欠であるため、相互教育等で顔の見える関係を築き医療機関との連携体制を充実化する。
達成状況 及び その効果	指導に特化する指導救命士が教育を担うことで、救急現場活動に沿った訓練等の企画・運営が実施できた。また、コロナ禍に係る搬送困難事案の解消を目的に救急医療情報システムを活用した医療機関選定が行われたほか、医療機関の協力のもと病院実習を実施して、救急救命士が現場で行うための救急救命処置（気管挿管・薬剤投与等）の認定資格を取得させたことで、市民サービスの維持向上が図れた。

事務事業評価表

６．所属長評価（今後の方向性）

事務事業	救急活動推進事業	担当課	警防課	担当係	救急管理係	管理番号	4511

■ ① 現状のまま継続
□ ② 見直して継続 →
□ ③ 拡充・重点化（コスト投入）
□ ④ 目的達成による終了
□ ⑤ 廃止を検討

□ 委託化等の検討
□ 成果向上のための改善
□ 効率化のための改善
□ 事業規模の縮小
□ 他の事務事業と統合

評価の内容説明

救急救命士の救急救命処置認定資格や指導救命士を中心とした教育訓練を実施することで、市民へ最良の救急医療サービスを提供すると共に、コロナ禍における搬送困難を解消することも踏まえ、救急医療体制の充実化のため現状を維持していく必要がある。

評価者	次長兼警防課長　髙野　政之

上記を実施するための具体的な取り組み内容は？

７．改善改革プランと今後の課題

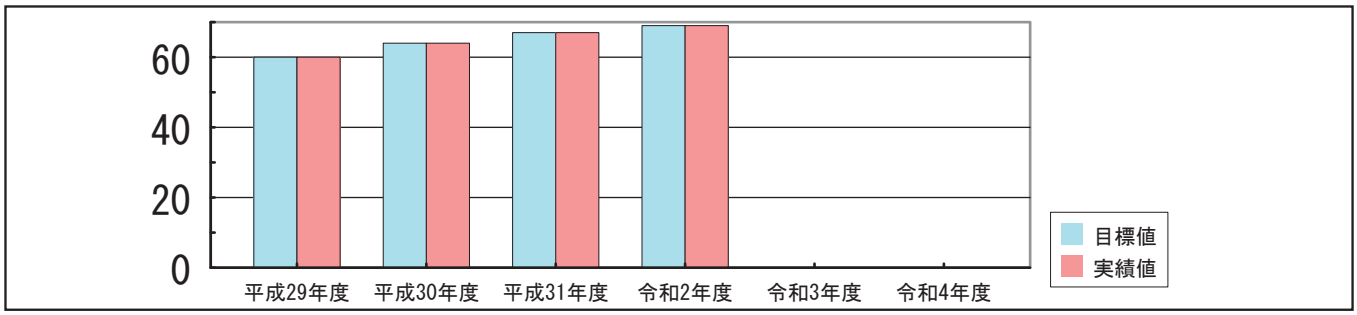
改善・改革案	救急救命士の現場活動に重要な「救急現場学」を軸とする教育を救急隊員へ浸透させるため、段階的な教育プランを企画して実行すると共に、救急救命士の再教育や認定資格取得では医療機関での実習は不可欠であるため、継続した医療機関との連携体制を保持する。

８．今後の課題（年度別計画等により実施する取り組み等）

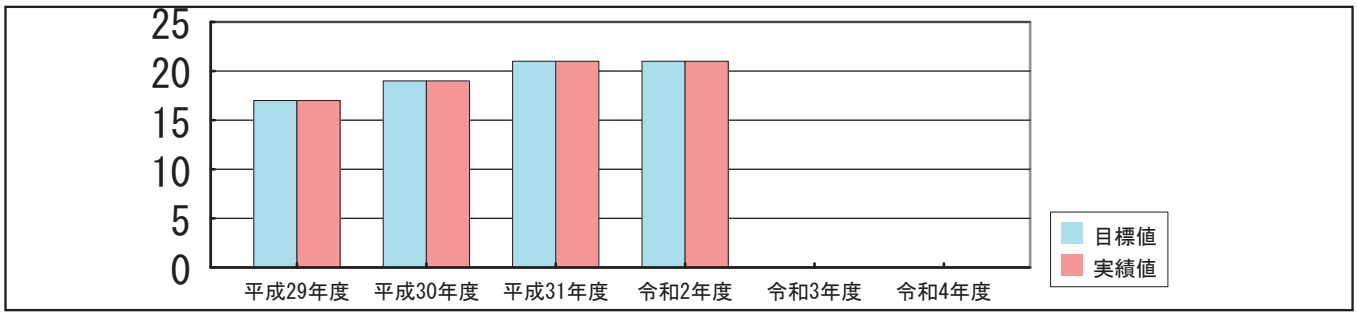
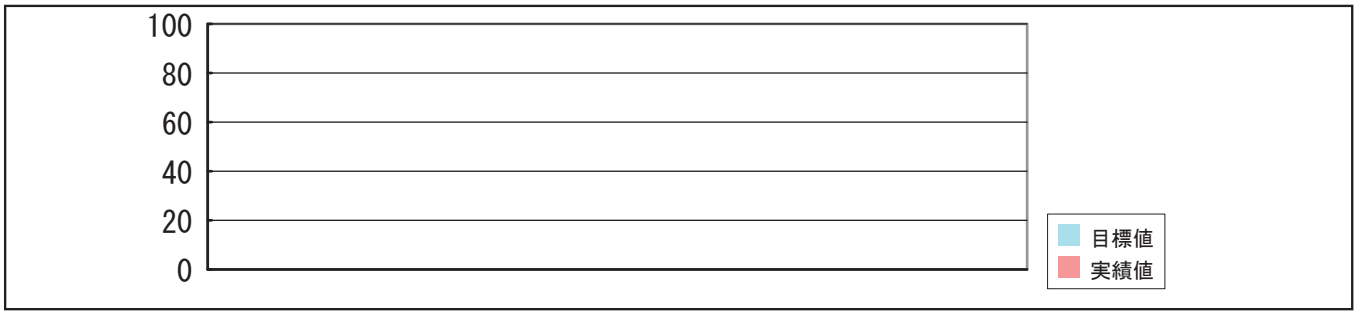
今後の課題	複雑化する社会情勢の中、医療の知識、技術、概念が日々進歩している。救急救命士の資質向上や救急救命処置の拡大も踏まえて、救命率向上の観点から実習や教育を通して、経時的な情勢に対応するため救急業務の高度化を進展させることや、コロナ禍での医療機関連携と地域救急医療体制の充実化が重要な課題である。

９．評価指標グラフ

区分	成果指標１	指標名	薬剤投与認定救命士数



区分	成果指標２	指標名	気管挿管認定救命士数



区分		指標名